



## REDDプラス公開セミナー開催のご案内

### グローバルなREDDプラスの枠組構築に向けて

—プロジェクト活動からのスケールアップ、多様なプレイヤーの有機的連携—

#### ポイント

- ・森林総合研究所REDD研究開発センターは、途上国におけるREDDプラス関連のプロジェクト活動を促進し、その知見を地球規模のREDDプラスの枠組に反映することを目的に、公開セミナーを開催します。
- ・国内外の専門家による報告や参加者との議論を通じて、プロジェクトレベルから準国レベル・国レベルにスケールアップする際の課題と、解決策について話し合います。
- ・セミナーの成果は今後の国際交渉、プロジェクト、研究開発に活かされます。

#### 概要

独立行政法人森林総合研究所では、2012年2月7日（火）、8日（水）、早稲田大学総合学術情報センター国際会議場（東京都新宿区）においてREDDプラス推進のための公開国際セミナーを開催します。

このセミナーはREDDプラスに向けた活動を通じて得られた経験や関係者が直面している課題等を共有し、REDDプラスの最終段階や、更には世界の持続可能な森林経営の推進まで見据えつつ、その解決策を考え、共有することを目的に開催します。

REDDに関する研究・開発や現場でのREDDプラス活動に取り組まれている皆様、今後の取組をご検討されている皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

予算：林野庁補助事業「REDD推進体制緊急整備事業」

#### 問い合わせ先など

独立行政法人 森林総合研究所 理事長 鈴木 和夫  
研究推進責任者：森林総合研究所 研究コーディネータ 松本 光朗  
研究担当者：森林総合研究所 REDD研究開発センター 藤間 剛  
広報担当者：森林総合研究所 企画部 研究情報科長 荒木 誠  
TEL：029-829-8130 FAX：029-873-0844

本資料は、林政記者クラブ、農林記者会、農政クラブ、筑波研究学園都市記者会に配付しています。

## 背景

途上国における森林減少・劣化に由来する排出の削減等（REDDプラス）については、2011年末の気候変動枠組条約第17回締約国会議（COP17）でその技術指針と資金のあり方について議論が行われ、REDDプラスが生物多様性や地域の人々の生活に悪影響を及ぼさないためのセーフガード（安全措置）に関する技術指針が決定された他、排出削減を評価するための参照レベルに関するモダリティ（取り決め）に合意するなど、枠組みの構築に向けて議論が進められています。

一方、このような国際的な枠組の検討と並行して、各国では公的機関による準備活動が進められるとともに、民間等も参加した実証活動も準備されつつあり、このような活動を通じて、関係者の間で現場での実施経験に基づく様々な知見やノウハウが蓄積されつつあります。

しかしながら、各プレーヤーが有機的なつながりを持って、それぞれの役割や関心を最大限に活かすためには、途上国での条件整備やプロジェクト活動と準国／国レベルをつなぐ仕組みの構築など、取組むべき課題も多いことが明らかとなっています。また、REDDプラスへの取り組みを通じて、気候変動、緩和にとどまらず、気候変動への適応、生物多様性保全や森林ガバナンスの向上といった森林をめぐるより幅広い課題にアプローチしていくことにも期待が寄せられています。

## 目的と内容

REDDプラスに向けた活動を通じて得られた経験や関係者が直面している課題等を共有し、REDDプラスの最終段階や、更には世界の持続可能な森林経営の推進まで見据えつつ、その解決策を考え、共有することを目的に国際セミナーを開催します。「REDDプラスに係る各プレーヤーの役割は何か?」、「途上国の政策やニーズと統合的な取組みとは何か?」、「REDDプラスの「活動」をどのように実施し、これをスケールアップするか?」、「REDDプラスを通じて何を實現すべきか? REDDプラスのその先へ」という4つのセッションでの事例報告と討論、「REDD活動の推進に向けて各プレーヤーの力を最大限に活かすためには何が必要か?」と題するパネルディスカッションをおこないます。

REDDに関する研究・開発や現場でのREDDプラス活動に取り組まれている皆様、今後の取組をご検討されている皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

## 用語の解説

### ・REDDプラス

気候変動枠組条約締約国会合（UNFCCC-COP）で議論されている気候変動の緩和活動の一つであり、森林減少・劣化による排出削減、森林保全、持続可能な森林管理、森林炭素蓄積の増強（Reducing Emissions from Deforestation and forest Degradation and the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks in developing countries）の略称です。英語ではREDD+ あるいはREDD-plus と表記されています。

### ・各プレーヤー

REDDプラスの実施にむけて活動する、国際機関、各国政府をはじめとする公的機関、民間企業やNGO、大学や研究機関など、をさします。

# グローバルなREDDプラスの 枠組構築に向けて

プロジェクト活動からのスケールアップ、  
多様なプレーヤーの有機的連携

2/7・8  
火 水  
9:45~17:30 9:30~17:30

早稲田大学総合学術情報センター国際会議場  
定員 300名 (参加無料。下記公式サイトから事前登録が必要です)

使用言語：英語・日本語 (同時通訳)

<http://www.redd-plus.jp/>

〈お問い合わせ先〉 REDD プラス公開セミナー運営事務局 redd-plus@jtbcom.com

日時	講演概要
7日 9:45~ 9:55	オープニング
10:05~10:25	オープニングセッション:REDDプラスに係る各プレーヤーの役割は何か?
10:40~12:00	セッション1 途上国の政策やニーズと整合的な取組みとは何か?
12:00~14:00	ポスターセッション
14:00~17:30	各国報告・まとめ
8日 9:30~ 9:40	導入
9:40~12:40	セッション2 REDDプラスの「活動」をどのように実施し、これをスケールアップするか?
12:40~14:00	ポスターセッション
14:00~15:20	セッション3 REDDプラスを通じて何を實現すべきか? REDDプラスのその先へ
15:40~16:30	パネルディスカッション REDD活動の推進に向けて各プレーヤーの力を最大限に活かすためには何か必要か?
16:50~17:30	クロージングセッション・閉会挨拶



〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 【総合案内】 03-3203-4141

JR 山手線 高田馬場駅から徒歩20分 学バス 高田馬場駅 - 早大正門  
地下鉄 東西線 早稲田駅から徒歩5分  
東京メトロ 副都心線 西早稲田駅から徒歩17分

主催：独立行政法人 森林総合研究所REDD研究開発センター

共催：早稲田大学 環境総合研究センター/国際協力機構 (JICA) /地球環境戦略研究機関 (IGES) /国際熱帯木材機関 (ITTO)

後援：林野庁/環境省/外務省/経済産業省/日本森林学会/日本熱帯生態学会/日本リモートセンシング学会/日本写真測量学会



# グローバルなREDDプラスの枠組構築に向けて

～プロジェクト活動からのスケールアップ、多様なプレーヤーの有機的連携～

## セミナー開催概要

途上国における森林減少・劣化に由来する排出の削減等(REDDプラス)については、2011年末の気候変動枠組条約第17回締約国会議(COP17)でその技術指針と資金のあり方が議論され、セーフガードの情報提供システムのガイドラインと参照レベルのモダリティに合意するなど、枠組みの構築に向けて議論が進められています。

一方、このような国際的な枠組の検討と並行して、各国では公的機関による準備活動が進められるとともに、民間等も参加した実証活動も準備されつつあり、このような活動を通じて、現場での実施経験に基づく様々な知見やノウハウが蓄積されつつあります。

しかしながら、各プレーヤーが有機的なつながりを持って、それぞれの役割や関心を最大限に活かすためには、途上国での条件整備やプロジェクト活動と準国/国レベルをつなぐ仕組みの構築など、取り組むべき課題も多いことが明らかとなっています。また、REDDプラスへの取り組みを通じて、気候変動緩和にとどまらず、気候変動への適応、生物多様性保全や森林ガバナンスの向上といった森林をめぐるより幅広い課題にアプローチしていくことにも期待が寄せられています。

このような中、本セミナーでは、REDDプラスに向けた活動を通じて得られた経験や関係者が直面している課題等を共有し、REDDプラスの最終段階や、更には世界の持続可能な森林経営の推進まで見据えつつ、その解決策を考え、共有することを目的に開催します。

## プログラム概要

2月7日(火)【受付開始】9:00	
オープニング	
9:45	開会挨拶 鈴木 和夫(森林総合研究所理事長)
9:55	来賓挨拶 沼田 正俊(林野庁次長)
10:05	オープニングセッション REDDプラスに係る各プレーヤーの役割は何か? 松本 光朗(森林総合研究所REDD研究開発センター長)
10:25	コーヒーブレイク
10:40	セッション1 途上国の政策やニーズと整合的な取組みとは何か? 各国報告 モデレーター: Henry Scheyvens(地球環境戦略研究機関) ●バブア・ニュー・ギニア ●フィジー ●タンザニア
11:40	質疑応答、議論
12:00	昼食・ポスターセッション
14:00	各国報告 モデレーター: Eduardo Mansur(国際熱帯木材機関) ●インドネシア ●カンボジア ●ラオス ●ベトナム
15:20	質疑応答、議論
15:40	コーヒーブレイク
16:00	各国報告 モデレーター: 宮園 浩樹(国際協力機構) ●モザンビーク ●コンゴ民主共和国 ●パラグアイ
17:00	質疑応答、議論
17:20	まとめ 松本 光朗(森林総合研究所REDD研究開発センター長)
17:30	終了
18:30	懇親会(区内別会場)

2月8日(水)【受付開始】9:00	
9:30	導入 松本 光朗(森林総合研究所REDD研究開発センター長)
9:40	セッション2 REDDプラスの「活動」をどのように実施し、これをスケールアップするか? ①スケールアップのためのアプローチ モデレーター: 天野 正博(早稲田大学) 話題提供 ●Naomi Swickard (Verified Carbon Standard AFOLU Manager) ●松本 光朗(森林総合研究所 REDD研究開発センター長) ●Jonah Busch(Conservation International) ●Sarah Walker (Winrock International)
11:00	質疑応答、議論
11:20	コーヒーブレイク
11:40	②現場における実践とそれを支える技術 話題提供 ●Samsudin Musa(マレーシア森林研究所) ●鈴木 圭(日本森林技術協会 事業部森林情報グループ) ●清野 嘉之(森林総合研究所 植物生態研究領域)
12:40	質疑応答、議論
13:00	昼食・ポスターセッション
14:00	セッション3 REDDプラスを通じて何を実現すべきか? REDDプラスのその先へ モデレーター: 上田 浩史(林野庁) 話題提供 ●Eduardo Mansur(国際熱帯木材機関) ●Zulfira Warta(WWF Indonesia) ●Henry Scheyvens(地球環境戦略研究機関)
15:00	質疑応答、議論
15:20	コーヒーブレイク
15:40	パネルディスカッション REDD活動の推進に向けて各プレーヤーの力を最大限に活かすためには何かが必要か? モデレーター: 森林総合研究所 パネリスト ●Naomi Swickard(Verified Carbon Standard AFOLU Manager) ●Jonah Busch(Conservation International) ●Sarah Walker (Winrock International) ほか
16:30	コーヒーブレイク
16:50	クロージングセッション
17:20	閉会挨拶
17:30	終了